

昭和廿四年、昭和定本日蓮聖人遺文の編纂委員に列す。
昭和廿五年四月、国の学制改革により、身延山短期大学の教授兼図書館長。又厚德寮々監。

昭和廿七年、甲府市三上しま（58才）と結婚。

昭和廿九年五月、普通試験検定委員、以降毎年度に及ぶ。

昭和卅四年、僧階昇叙して権僧正。

昭和卅四年八月、身延町梅平三九八六に移転。

昭和卅八・卅九・四十年度の布教研修所の主任。

昭和四十一年度より、布教研修所の常任講師の一に列す。

昭和四十一年度、立正大学仏教科特別講師となり今日に及ぶ。

昭和四十二年、日蓮宗宗務院内現代宗教研究所の顧問に就任、今日に至る。

昭和四十三年、身延山短期大学学頭に就任、今日に至る。

室住一妙先生著作・論文目録

○著作の部

- 1、身延文庫略沿革 昭和18年身延山久遠寺刊
- 2、行学院日朝上人 全26年7月同
- 3、開目抄に聞く 全41年4月教育新潮社刊
- 4、日蓮大聖人と俱に 全42年2月全
- 5、いのちの連環 全45年大宣堂印刷
- 6、摂折論の展開 全43年3月平楽寺書店（共著）
「近代日本の法華仏教」
- 7、五綱判論 全26年11月平楽寺書店（共著）
「望月欲厚先生古稀記念論文集」
- 8、日蓮聖人の教義 全36年12月教育新潮社（共著）
「身延山久遠寺」
- 9、七面山縁起と考証 全35年11月七面大明神奉讃会
「七面大明神縁起」 （共著）
- 10、聖誕七五〇年に思う―その人の意味について―
「日蓮聖人研究」 全47年平楽寺書店（共著）
- 11、宗義大意 全47年身延山短大（共著）
「普通試験（甲）講義要録」
- 12、御講聞書をめぐって 全49年平楽寺書店（共著）
「日蓮教学の諸問題」
- 13、摂折論の展開 全48年平楽寺書店（共著）
「近世法華仏教の展開」

14、摂折論の展開 全49年平楽寺書店（共著）

「中世法華仏教の展開」

15、仏教における神秘の問題―成仏道にふれて―

全50年日本仏教学会（共著）

○論文の部

(1)『棲神』発表論文

号―年 時― 題 号

20、昭10・1 日蓮宗学新指針

21、全11・2 新発見の聖伝資料について

23、全12・12 純粹宗学の理念とその展開

24、全13・12 即身成仏研究序説

25、全15・2 純粹宗学本質論の資料と問題

26、全16・3 新体制下における本質宗学よりの提題

27、全17・3 大信の発動

28、全18・6 宗学とは何ぞ（絶対自覚の学として）

29、全28・9 純粹宗学の綱領的展開

30、全30・10 われらなにをなすべきか

31、全31・10 建設のための吟味（純粹宗学における問

題学的領域）

32、全33・3 宗学における体系の問題

32、全33・3 体系ということ

33、全34・12 体系の展開

34、全36・3 体系的対決

35、全37・2 道徳的次元の問題について

35、全37・2 開目抄鑽仰（科段

36、全37・10 日蓮聖人における道徳的次元（続）

37、全38・12 立正平和運動

38、全40・3 立正平和運動の核

39、全41・2 ほとけへの道について

40、全42・12 うもれている記念塔

41、全43・11 宗学論私議（創造宗学への理解）

42、全45・3 宗宣言おぼえがき

42、全45・3 安心問答落居おぼえ書き

43、全46・2 宗宣言と教団

43、全46・2 「安心問答落居」について

44、全47・2 随想 仏になること

44、全47・2 日蓮聖人ご降誕の意義について

45、全48・2 棲神の意義

46、全49・3 みのぶ山論

47、全50・3 随想みのぶ山論をめぐって

48、全50・10 御講聞書にそうて

(2) その他の雑誌類への発表論文

年時 論題 諸誌(発行所)

1、昭和26・7 現代宗学の基本問題

「大崎学報」98 (立正大学)

2、全44 昔から提起されている問題

「問題提起」(現代宗教研究所)

3、全44 本門戒壇義「所報」No. 3 (全)

4、全43 頌詩「所報」No. 2 (全)

5、全45 純粹宗学と現代「所報」No. 4 (全)

6、全50 現代を活かす宗学「所報」No. 9 (全)

7、全47・7 日蓮と立正安国論

「宗教」七月号(教育新潮社)

8、全26 法花経にあらはれた菩薩の問題

「日本仏教学会年報」16 (日本仏教学会)

9、全32・3 日蓮聖人の行跡における叡智性的一面

「年報」22 (全)

10、全37・3 日蓮聖人における道徳的次元

「年報」27 (全)

11、全41・3 日蓮聖人における証の系譜

「年報」31 (全)